

独立行政法人 国立国語研究所 第19回「ことば」フォーラム

「ことばを探す — 語彙の世界に遊ぶ —」

共催：北区教育委員会

協賛：大日本図書株式会社

2004年2月21日（土）

国立国語研究所5階講堂

第1部（14：00～）

ごあいさつ 国立国語研究所 所長 甲斐睦朗

「語彙の世界とは」

山崎 誠（国立国語研究所 研究員）

「言葉に遊ぶ」

神津 十月（作家）

「分類語彙表とは」

宮島 達夫（京都橘女子大学客員教授）

休憩（15分間）

第2部（15：15ころ～16：00）

パネルディスカッション

神津十月・宮島達夫・山崎誠

- ・ 御質問のあるかたは、黄色の質問票に宛先の発表者名と質問の内容を記入して、休憩中に黄緑の札をつけている係員に渡してください。筆記具の用意も若干あります。
- ・ 洗面所は、各階の階段裏手にあります。混雑時は5階以外も御利用ください。3階の洗面所では車椅子を使えます。
- ・ お帰りの際に、アンケートに御協力ください。

「語彙の世界とは」

国立国語研究所・山崎 誠

1. 「語彙」という用語について

語彙の「彙」という字は、もともと「ハリネズミ」という意味でした。そこから「類別して集める」「同類のもの集まり」という意味になったと思われます。日常はあまり使わない字ですが、ほかに「彙報」（分類して集めた報告）という言葉があります。また、日本の書籍の名前で、『訓蒙図彙（きんもうずい）』（1666 以後）、『哲学字彙』（1881）などがあります。いずれも分類して集めたものという意味で使われています。

「語彙」とは、語の集まりのことを指します。例えば、次のような語の集合を考えてみましょう。

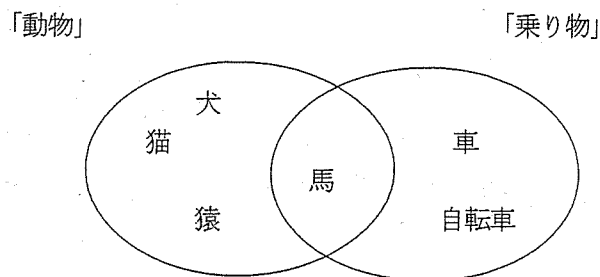


図1 語彙のイメージ

どのような集合を考えるかはその集合を規定する「観点」によって異なりますので、さまざまな語彙が考えられます。上記の例では、「馬」という語が、「動物」という見方をすれば左側の円に配置され、「乗り物」という見方をすれば右側の円に配置されることが分かります。

2. 「語彙」を規定する観点

どのような観点に基づいて語の集合を規定するかによって、いろいろな語彙が考えられます。例えば、語の「出自」について考えてみましょう。この場合、和語・漢語・外来語などが出自を同じくする語の集合（語彙）に相当します。同様に、品詞や語形、使用場面などの観点から語彙を考えてみるのもおもしろいでしょう。

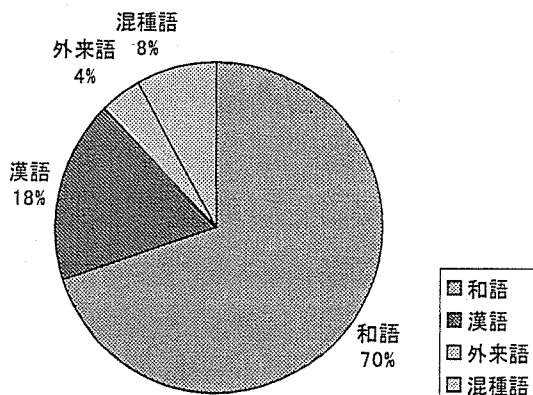


図2 テレビ放送における語種（※国立国語研究所報告112『テレビ放送の語彙調査1』より）

3. 語と語の意味関係

「語彙」というまとまりを考える上でいちばん重要な観点は、「意味」です。ここでは、一つ一つの語の「意味」が語彙という集合の中で、どのような関係を作っているか考えてみましょう。まず、理解の手助けとして「意味を構成する要素」を考えます。

前ページの図1で「動物」「乗り物」という名前を付けた集合を示しましたが、この名前がそれぞれの語にとって「共通の要素」と考えられることを御確認ください。共通の要素が取り出せることで、例えば、

「母」という語は、 <親><女性>
「父」という語は、 <親><男性>

というように、語の意味を、意味を構成する要素を用いて示すことができます。<>内がそれぞれの意味の要素です。この方法で、「父」と「母」の意味的に共通している部分と違っている部分を明確に取り出すことができるのです。

○類義語・対義語の関係

「あたたかい」	=<感覚><温度が高い><快適>
「あつい」	=<感覚><温度が高い><不快>

図3 類義語の意味の構成

「あたたかい」と「あつい」は、温度が高いことに対する感覚という点で共通していますが、それに対する感じ方が快適か不快かで異なっています。

「あつい」	=<感覚><温度が高い><不快>
「さむい」	=<感覚><温度が低い><不快>

図4 対義語の意味の構成

一方、対義語の関係にある「あつい」と「さむい」は、温度の高低では、反対の関係にありますが、それ以外の要素は共通しています。したがって、「あたたかい」「あつい」と「あつい」「さむい」とは、共通の要素が存在し、異なる要素があるという点では同じであることが分かります。

○上位語・下位語の関係

ある語の意味が別の語の意味に含まれるとき、上位・下位の関係にあると言います。

例えば、「くだもの」と「りんご」の場合、「くだもの」は、「りんご」の上位語、「りんご」は、「くだもの」の下位語になります。

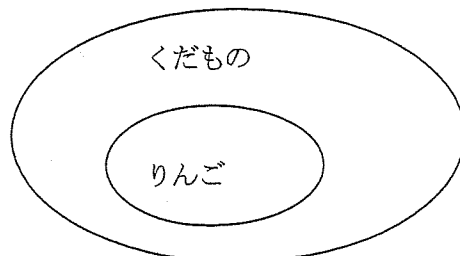


図5 上位語・下位語の関係

上位語と下位語には、必ず共通の要素が存在します。「くだもの」と「りんご」の場合では、例えば、<食べられる><果実>という要素が共通します。

4. 「語彙体系」とは

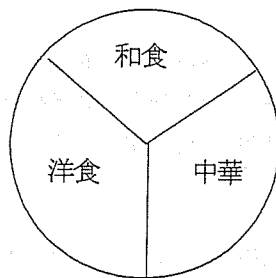
一つ一つの語は、他の語と一定の意味的關係を保ちながら存在していると考えられます。そのような意味關係に支えられた「語彙」が語彙体系です。

語彙体系の例として、親子關係を表す小さな語彙体系を考えましょう。この語彙体系は、図の縦の系列である世代（親・子）と横の系列である性別（男・女）により整理され、整った体系を示しています。

母	父
娘	息子

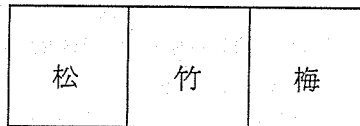
図6 親子關係を表す語彙体系

語彙体系には、いくつかのタイプが考えられます。そのタイプを紹介します。



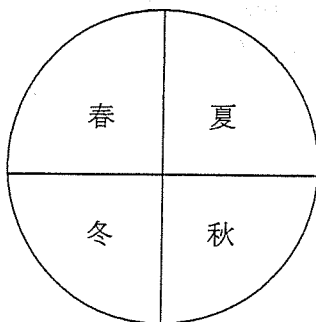
「対等」：それぞれが同じ立場でほかの語と関係しているような関係。

図7 対等の關係



「順序」：一定の順序を持っている關係。

図8 順序の關係



「循環」：一定の順序で繰り返すもの。

図9 循環の關係

語彙体系は、上記のように必ずしも整ったものばかりではありません。あてはまる語がない場合や、一つの語を共有している場合もあります。

前ページの親子関係の図を祖父母や孫の世代に拡大してみると、孫の世代で性別による使い分けがないことが分かります。

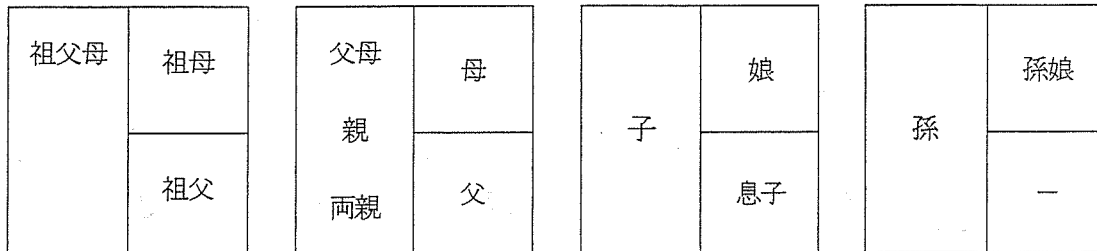


図10 世代を表す語彙体系

5. まとめ

本日御紹介した「語彙の世界」を理解する上で重要な考え方である「語彙体系」の特徴について3点述べます。

第1点は、「語彙体系」は、固定したものではなく流動的である、という点です。例えば、コンピューターや携帯電話などの登場で、電子機器に関する語彙は非常に増加しました。その一方で使われなくなっていく語もあります。新語、流行語、死語という語彙の変遷を表す現象もその一環としてとらえることができます。

第2点は、「語彙体系」は、そこに生活している人々の生活様式に影響される、ということです。例えば、将棋が趣味の人は、将棋に関する語彙の量がほかの人よりも多いはずですが、また、それぞれの職業によって「専門語」というものがあり、その集団の中での伝達に役立っています。わたしたちの生活を見ると、物質面・文化面で国際化が進み、外来語が増えてきたことも語彙体系への影響として考えられます。

第3点は、「語彙体系」は、人間的なものであり科学的な世界とは別のものである、ということです。科学的な立場から見ると、物質を構成する単位である元素は原子番号や原子量により整理され、一覧表の形で一律に扱われますが、言葉の世界では、「金（元素記号 Au）」や「銀（元素記号 Ag）」は、<貴重なもの>という意味がありますし、同じ炭素（元素記号 C）でも「石炭」と「ダイヤモンド」では人間にとっての意味が大きく違います。

参考文献

- 宮島達夫(1977)「語彙の体系」(『岩波講座日本語9 語彙と意味』所収)、岩波書店
 森田良行・村木新次郎・相澤正夫(1989)『ケーススタディ 日本語の語彙』、おうふう

シソーラス (意味分類体辞典) の紹介

宮島達夫 (京都橋女子大学)

(元版)

1. 国立国語研究所『分類語彙表』

中項目一覧

	1 体の類	2 用の類	3 相の類
抽象的關係	1.10 事柄 35	2.10 真偽 236	3.10 真偽 322
	1.11 類 36	2.11 類 236	3.11 類 322
	1.12 存在 39	2.12 存在 237	3.12 存在 324
	1.13 様相 41	2.13 様相 240	3.13 様相 324
	1.14 力 45	2.14 力 242	3.14 力 328
	1.15 作用 46	2.15 作用 242	3.15 作用 328
	1.16 時間 58	2.16 時間 262	3.16 時間 330
	1.17 空間 65	2.17 空間 263	3.17 空間 333
	1.18 形 71		3.18 形 333
	1.19 量 73	2.19 量 263	3.19 量 334
人間活動の主体	1.20 人間 82		
	1.21 家族 84		
	1.22 仲間 86		
	1.23 人物 87		
	1.24 成員 93		
	1.25 公私 99		
	1.26 社会 102		
	1.27 機関 105		
人間活動 — 精神および行為	1.30 心 108	2.30 心 265	3.30 心 338
	1.31 言語 125	2.31 言語 279	3.31 言語 344
	1.32 芸術 138	2.32 芸術 285	
	1.33 生活 141	2.33 生活 286	3.33 生活 345
	1.34 行為 152	2.34 行為 294	3.34 行為 347
	1.35 交わり 155	2.35 交わり 296	3.35 交わり 350
	1.36 待遇 160	2.36 待遇 300	3.36 待遇 350
	1.37 経済 165	2.37 経済 306	3.37 経済 351
	1.38 事業 171	2.38 事業 306	
	生産物および用具	1.40 物品 178	1.46 機械
1.41 資材 179		1.4600 灯火	
1.42 衣料 182		1.4610 鏡・レンズ・カメラ	
1.43 食料 186		1.4620 電気器具・部品	
1.44 住居 192		1.4630 機械・装置	
1.45 道具 195		1.4640 計器	
1.46 機械 202		1.4650 乗り物(陸上)	
1.47 土地利用 206		1.4660 乗り物(海上)	
自然物および 自然現象	1.50 自然 208	2.50 自然 315	3.50 自然 353
	1.51 物質 210	2.51 物質 316	3.51 物質 355
	1.52 天地 216	2.52 天地 318	3.52 天地 356
	1.53 生物 219		3.53 生物 356
	1.54 植物 220		
	1.55 動物 223		
	1.56 身体 227	2.56 身体 318	3.56 身体 356
	1.57 生命 231	2.57 生命 318	3.57 生命 357
4 その他の類	4.11 接続 358		
	4.30 感動 359		
	4.31 判断 359		
	4.32 呼び掛け 360		
	4.33 挨拶 361		
	4.50 動物の鳴き声 361		

1.466 (海上)

*船(ふね・せん) *船舶 *艇 艇船 出船 (.152)

船体 へさき 船首 船腹(せんぶく) 船尾 ふなべり ふなばた(.177)

船室 甲板 上甲板 デッキ タラップ(.442)

帆 白帆 帆柱 マスト

櫓 舵 碇

小舟 丸木舟 笹舟 ボート はしけ 筏

箱船 帆船 帆かけ舟 帆前船 ジャンク ヨット モーターボート ランチ 蒸気船

黒船 *汽船

渡し舟 *漁船 宝船 *商船 *母船 本船

土船 釣り舟 助け舟 便船

*軍艦 艦艇 *艦 *戦艦 旗艦 潜水艦

空母 母艦

(増補改訂版)

1.4660 乗り物(海上)

01 ふね(船・舟) - 船(せん) 船舶 艦船
舟艇 艇 艇船 全船 全艦

02 大船 小舟(こぶね) 小舟(おぶね)
和船 川舟・川船 河船
千石船 丸木舟 ささ舟 土舟
ボート 短艇・端艇 スカル[小艇] カッター
カヌー カヤック
高瀬舟 はしけ 伝馬船 伝馬
屋形船 双胴船 ゴンドラ

03 箱船 ノアの箱船 いかだ 帆船(はんせん)
帆船(ほぶね) 帆掛け船 帆前船 ヨット
ジャンク[中国]
クルーザー モーターボート
内火艇 ランチ
水上オートバイ

04 蒸気船 汽船 機帆船 黒船
ホバークラフト 水中翼船

05 タンカー 油槽船 回船

06 渡し舟 渡船
引き船 タグボート
係船 もやい船
出船 入り船 帰帆

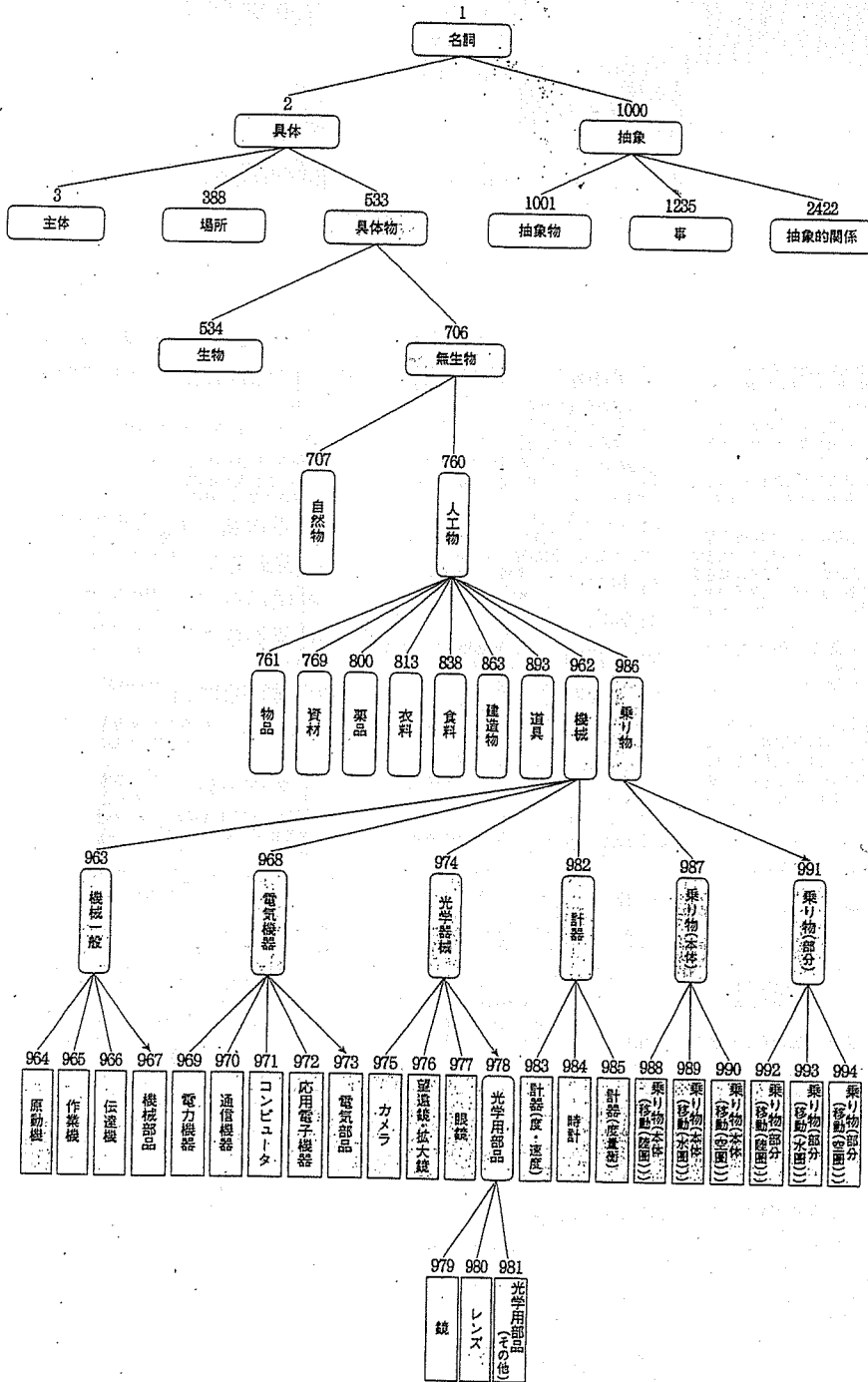
07 貨物船 旅客船 客船 貨客船
漁船 漁舟(ぎょしゅう) 釣り船
捕鯨船 かに工船 う鯛い舟 う舟
宝船 商船 朱印船 海賊船
砕氷船 巡視船 救助船 助け船 救命ボート
救命艇

08 母船 親船 本船 僚船
キャッチャーボート
便船 連絡船 定期船
フェリーボート フェリー カーフェリー
難破船 幽霊船

09 軍艦 軍船 艦艇(もうどう) 巨艦
艦艇 艦 戦艦 自衛艦 護衛艦 主力艦
旗艦 イージス艦 駆逐艦 巡洋艦
航空母艦 母艦 空母
水雷艇 魚雷艇 潜水艦 潜航艇
原潜 原子力潜水艦 サブマリン
僚艦 敵艦

10 へ先 みよし とも[船尾]
船首 船腹(せんぶく) 船尾 船べり
船端 船底(ふなぞこ) 船倉
船室 キャビン
甲板 上甲板 デッキ 船板
タラップ 舷梯(げんてい) ハッチ

3. 池原悟[ほか]『日本語語彙大系』岩波書店



989 乗り物(本體(移動(水圏))) [段8/親987/子孫-]
 亞船 いかだ 筏 生け船 板船 一葉船 入り船(いりふね) 入船 入り船(いりふね) ウィンドジャマー 浮き舟 浮舟 英艦 曳船(えいせん) 英船 大船 押し送り船 親船 カーフェリー 外航船 回船 海防艦 外輪船 掛かり船 牡蠣船 貨客船 河船 貨船 カタマラン 滑席艇 カッター カニ工船 蟹工船 カヌー 画舫 貨物船 カヤック ガレー 川崎船 川船 艦 艦船 艦隊 艦艇 旗艦 機船 汽船 汽艇 掃帆 機帆船 客船 艦艇 旗艦 機船 汽船 汽艇 掃帆 機帆船 客船 キャッチャーボート 救命艇 給油船 巨艦 漁舟 漁船 空母 駆潜艇 駆逐艦 クリッパー 割り船 割船 クルザー クレーン 黒船 軍艦 軍船 軽舟 係船 ケビン 原子力潜水艦 原潜 航空母艦 工船 鋼船 御座船 御朱印 御朱印船 孤舟 孤帆 小舟 高麗船 ゴンドラ 碎水船 サンパン 三板 自衛艦 シェル ジャック 舟艇 出船(しゅっせん) 主力艦 巡航船 巡視艇 渡渡船 巡洋艦 蒸気船 商船 商船隊 乗艇 上陸用舟艇 戦艦 司令塔 新造船 水上飛行機 水中翼船 水陸両用車 スカール スカル スクーナー 捨て小舟 砂舟 砂船 豹子船 戦艦 潜艦 潜航艇 千石船 潜水艦 潜水母艦 船隊 船団 船底(せんてい) 船船 掃海艇 双洞船 大発 高瀬舟 高瀬船 宝船 タグボート 助け船 助船 タンカー 短艇 端艇 団平 団平船 チャーター船 猪牙船 沈船 沈没船 つり船 釣船 艇 定期船 出船(でふね) 伝馬 伝馬船 唐人船 灯船 燈船 同船 渡海船 独船 渡船(とせん) 独艦 独航船 吉舟 内火艇 難破船 荷足り 荷足船 乗合船 バック 屍艦 屍船 箱船 方舟 舢舨 破船 バチスカーフ バトームシュー 花見船 八幡船 速舟 バルクキャリアー 帆影 帆船 引き舟 引き船 引舟 引船 曳き舟 曳き船 曳舟 曳船(ひきふね) 病院船 便船 フェリー フェリーボート 腐朽船 仏艦 ブッシャー 仏船 船蔵 船底(ふなぞこ) 舟 船 フリゲート フリゲート艦 プレジャーボート 米艦 兵船 米船 べか船 ベダロ 扁舟 砲艦 ポエージチャーター ボート 帆掛け船 帆掛船 母艦 北転船 捕鯨船 母船 帆前船 本船 ぼんぼん蒸気 丸木舟 丸木船 マンモスタンカー 水船 密航船 藤艦 モーターシップ モーターボート 藻刈り船 木造船 本舟 もやい船 筋い船 筋船 屋形船 屋根船 郵船 遊覧船 遊山船 油槽船 油送船 備船 用船 ヨット 夜船 ラフティング ランチ 僚艦 僚船 僚艇 レボ船 連絡船 ロイド船 老齡艦 和船 渡し舟 渡し船 渡舟 渡船(わたしふね) ~艦 ~船(せん) ~艇 ~舟 ~船(ふね) ~丸 船(ふな)~

小分類一覧		1105 いじめる	1800 知る	2105 触れる
0000 生きる	0500 感じる	1200 困る	1801 見分ける	2200 記す
0001 助かる	0501 酔う	1201 迷う	1802 見通す	2201 書く
0002 生かす	0502 のぼせる	1202 恥じる	1803 見つける	2202 描く
0003 暮らす	0503 たかぶる		1804 見つかる	2203 表す
0004 助ける	0504 痛む		1805 気づく	2204 著す
0005 死ぬ	0505 くらむ		1806 学ぶ	2205 刷る
0006 枯れる	0506 におう		1807 読む	2206 うつす
0007 殺す	0507 かぐ	1300 嫌う	1808 覚える	
0008		1301 憎む	1809 忘れる	
		1302 恨む		
		1303 ねたむ		

乗る6313m

移す6200k〜移る6201j

- 行列車の名称。●和製洋語。ブルー(blue)+トレイン(train)
- 11【御召し列車おめしレ】皇族(天皇・皇后)が乗る専用列車。
- 12【モノレール】1本のレールで走る鉄道車両。▷懸垂式。▷踏車式。▷monorail
- 急行・特急 → 2700行くk ●交通機関 ●貨車など → 6200移すk ●荷物を運ぶ車 ●客車
- 13【客車きゃく】旅客を乗せて運ぶ車両。特に、機関車で牽引するもの。
- 14【箱こ】客車。「同じ〜に友人が乗っていた」
- 15【冷房車レイボ】冷房の設備があり、夏のあいだ冷房を入れている客車。▷弱
- 16【禁煙車キンエン】客席やデッキが禁煙になっている客車。
- 17【喫煙車キツェン】車内の喫煙が許されている車両。
- 18【グリーン車グリーン】JR各社で特別の設備やサービスを備えた客車。●通常の運賃のほかに「グリーン料金」が徴収される。
- 19【寝台車シンダ】就寝のための設備を備えた客車。
- 20【食堂車シンカド】食堂の機能を備えた車両。
- 21【展望車テンボ】景色がよく見渡せるようにつくりだされた客車。
- 路面電車
- 22【路面電車ロメンダ】道路上に敷かれたレールの上を走る電車。
- 23【ちんちん電車キンチン】路面電車。●運転手と車掌の合図に、ちんちんと鐘を鳴らす(鳴らした)ことから。
- 24【市電シデ】①市営の電車。②路面電車。●市街を走ることから。
- 25【都電トデ】東京都交通局が営業する路面電車。
- 鉄道 → 2600通るk ●交通機関 ●雪上の乗り物
- 26【橋り】雪の上を滑らせて移動する乗り物。●通常、底に2枚の金属や竹がついており、斜面を重みだけで進ませたり、馬や犬などに引かせる。●「橋り」は、犬に引かせて使う。▷レール
- 27【雪上車センジョ】雪原や氷原を走るためにつくられた乗り物。●車輪のかわりにキャタピラを装着している。
- 28【スノーモビル】バイクの前輪をスキーに替え、後輪にキャタピラを装着したような格好の、それに似た小型の雪上車。▷snowmobile
- 船
- 30【船お】水上に浮かべて人が乗ったり物を載せたりして運ぶもの。「〜に乗って川を渡る」●「舟」も書く。●「舟」は、特に推進に動力を用いない小型のものに使われる。
- 31【小舟こぶ】小さな舟。「湖に〜を浮かべて釣りをたれる」●「小船」も書く。

- 32【ボート】小型の、西洋風の船。特に、手でオールをこいで進める西洋風の舟。▷boat
- 33【大船おおね】大きな船。「100隻の〜に兵と武器をのせて出発した」
- 34【川船かわね】川で用いる船。特に、底の平たい小舟。▷「川舟」とも書く。
- 35【船舶せん】図ふね。「〜の航行を管制する」●狭義には大型のふねを指すが、広義にはすべてのふねを含む。●一般に「舟」「艇」が比較的小さなふねを指すのに対して、「船」は比較的大きなふねを指す。
- 36【舟船せん】図「船舶」の古い言い方。
- 37【舟艇せん】図小型の船。▷上陸用
- 38【用船ヨウ】図あることに用いる船。▷警備救難業務。●複合語の構成要素として用いられることが多い。もっぱらあることに用いられる船は「専用船」という。
- いろいろな船
- 39【和船ワセン】櫓や帆などによって進む、日本固有の形式の木造船。▷洋船
- 40【洋船ヨウセン】西洋の形式の船。▷和船 ●「西洋船」ともいう。
- 41【帆船ハンセン】帆で風を受けて走る船の総称。
- 42【帆掛け船ハカケ】小型の帆船。●単に「帆掛け」ともいう。
- 43【帆船ハンセン】図帆船。特に、帆掛け船。
- 44【ヨット】競技・遊覧などに用いられる、帆で風を受けて走る、西洋風の小型帆船。▷レース。▷ハーバー。▷バーカ。▷yacht
- 45【ディンギー】全長数メートルの、甲板のない小型のヨット。▷dinghy
- 46【蒸気船ジョウキセン】蒸気機関を動力として走る船。
- 47【汽船キセン】①「蒸気船」の略。②動力をもつ大型の船。
- 48【外輪船ガイリンセン】船体の両側あるいは船尾に取りつけた水車のようなものを、蒸気機関などで回して進む。「ミシシッピ川」の〜 ●「外車船」ともいう。渡り川などに通ずる。
- 49【機船キセン】図内燃機関を動力とする船。●「発動機船」の略。
- 50【焼き玉船ヤキタマセン】焼き玉機関(開閉を用いるエンジン)を動力とする小型の船。
- 51【ぼんぼん船ボンボンセン】図焼き玉船。●焼き玉機関の音から。「ぼんぼん蒸気」ともいう。
- 52【べか船ベカセン】①船尾に取りつけた櫓で、薄板でつくられた、艇蓋の簡素な構造のひとり乗りの小舟。●多く、のりや貝などの採集に用いられる。●昔、川の浅瀬で用いた、艇蓋で簡素な構造の川船。●「べか舟」とも書く。
- 53【高瀬舟たかせ】昔、櫓や棹で漕いだ、細長くて奥水が浅く、底の平たい(小型の)川船。●単に「高瀬」ともいう。

- 1105 いじめる
- 1800 知る
- 1801 見分ける
- 1802 見通す
- 1803 見つける
- 1804 見つかる
- 1805 気づく
- 1806 学ぶ
- 1807 読む
- 1808 覚える
- 1809 忘れる

- 2105 触れる
- 2200 記す
- 2201 書く
- 2202 描く
- 2203 表す
- 2204 著す
- 2205 刷る
- 2206 うつす

- 64【平田船ひらた】昔、櫓や棹で漕いだ、細長くて奥水が浅く、底の平たい大型の川船。●「ひらたぶね」ともいう。単に「ひらた(ひらだ)」ともいう。「簡船」「平駄船」とも書く。
- 55【船はし】人の乗り降りや荷物の積み降ろしのために本船と波止場を往復する小舟。
- 56【ランチ】港湾などで、連絡や人・物の運搬などに用いられる、エンジンで備えた小型の船。▷launch
- 57【商船ショウ】営利のために人や貨物などを運ぶ船。▷会社
- 58【客船きゃく】旅客を乗せて運ぶ船。▷豪華
- 59【貨客船カキセン】貨物船に客席の機能を付加した船。
- 60【乗合船のりせん】決まったコースを、一定の料金を取って、不特定多数の客を乗せて往復する客船。
- 61【水上バススイジヨ】港湾や川などを、バスのように決まった場所(接岸)しながら客を乗り降らせて往復する乗合船。
- 62【遊覧船ユウラン】客が乗って景観を楽しめるように走る船。「ヨーロッパ」の「遊覧船」
- 63【屋形船ヤカフネ】畳敷つきの(座敷風の遊覧船。「去年の忘年会は〜を借り切ったんだよ」●船内で客に飲食させるものも多し。
- 64【ゴンドラ】イタリア・ベネチアの運河で観光用に用いられている、船首と船尾が反り上がった、底が平らな細長い小舟。船尾で櫓を使って操る。▷igondola
- 65【モーターボート】エンジンを備えた、高速で走る小型の船。▷motorboat
- 66【クルーザー】ベッドや炊事設備などを備えた船室をもつ、巡航用のモーターボートやヨット。▷cruiser
- 67【水中翼船スイチュウ】船体の下部に翼のようになっている船。水面に浮かび上がって、高速で進む。
- 68【ホバークラフト】船体の下に強く空気を噴出して、浮き上がって進む水陸両用の乗り物。●イギリスのプリティッシュホバークラフト社の商標だが、この形式の乗り物の代名詞として使われている。▷Hovercraft
- 69【筏いか】木や竹を並べてつないだ、人が乗ったり物を運んだりする、水面に浮かべるもの。▷舟。▷舟乗り
- ボート・カヌー → 5401乗るk ●こぐもの ●渡し船・フェリー → 2604通すk ●渡すもの ●約り船 → 4606約るk ●約り船 ●漁船 → 4605捕るk ●漁をするための船 ●飛行機など → 4912飛ばす ●輸送機・輸送船 → 6200移すk ●荷物を運ぶ飛行機・船 ●借りて乗る乗り物 → 4213貸すk ●貸す物 ●高いところに上がるための乗り物 ●急勾配を上下するための巻き上げ式の

- 36【貨物列車カモツレ】貨車で編成された列車。「〜専用の駅」
- 37【タンク車タンク】液体を運ぶための、タンクをそなえた貨車(や自動車)。●「タンク(tank)」は液体などを入れる容器の意。●荷物を運ぶ飛行機・船
- 38【輸送機ウツキ】人や貨物などの輸送を目的とした飛行機。
- 39【運送船ウンセン】貨物を運送する船。
- 40【輸送船ウンセン】物資や人を輸送する船。
- 41【貨物船カモツレ】主として貨物を運送する船。▷で密入国する
- 42【貨客船カキセン】貨物や人を輸送する船。
- 43【タンカー】油などを輸送するための、タンクをそなえた船。▷tanker
- 44【フェリーボート】旅客や貨物を自給船。「〜で北海道に行く」「〜で被災地へ水を運ぶ」●略して「フェリー」ともいう。▷ferryboat
- 45【カーフェリー】自動車を乗客ごと乗せて運ぶ船。▷car ferry ●人や荷物を運ぶ装置
- 46【ベルトコンベヤ】幅の広いベルトを上に乗せて、自動的に連続的に運ぶ装置。▷belt conveyor
- 47【インクライン】斜面にレールを敷き、動力で台車を動かして、貨物や船を運ぶ装置。▷incline
- 48【昇降機コウキョウ】動力によって人や荷物を上下に運ぶ、箱型の装置。▷「昇降機」の、一般的な言い方。▷elevator
- 49【エレベーター】①スキー場などで、低いところから高いところへ、腰掛けの状態の人を運ぶ装置。▷券 ●商品などの上げ下ろしをする小型のエレベーター。▷lift
- 50【リフト】①スキー場などで、低いところから高いところへ、腰掛けの状態の人を運ぶ装置。▷券 ●商品などの上げ下ろしをする小型のエレベーター。▷lift
- 51【エスカレーター】動力で乗客を昇降させる階段状の装置。●比較的に小学校などから最上上の学校へ進学することもある。▷escalator ●その他
- 52【運輸機関ウツキセン】旅客や貨物を運ぶ車・船・航空機・鉄道などの総称。
- 53【交通機関コウツウケン】人や物資の輸送・移動にかかわる、施設・機関の総称。

S 名詞の類: ヒト

- 00【運搬人ウンパン】物品を運搬する人。
- 01【運送人ウンソウ】物品または旅客の運送を仕事とする人。
- 02【運送業者ウンソウキョウ】運送業を営んでいる人。
- 03【運送屋ウンヤ】運送業者。

5. Roget's Thesaurus

1. 抽象的關係
2. 空間
3. 物理
4. 物
5. 感覺
6. 知能
7. 意志
8. 感情

Class Two: Space



IV. Motion



B. Change of Place



277. Ship, Boat



277. SHIP, BOAT

著作権の都合で
この部分は割愛します

Class Five: Sensation → VI. Hearing → E. Musical Sounds

→ 465. Musical Instruments → piano

Class Six: Intellect → III. Communication of Ideas

→ K. Written Language → pen

Class Seven: Volition → V. Support and Opposition

→ D. Contention → 801. Arms → pistol

"ROGET'S INTERNATIONAL
THESAURUS"
Robert L. CHAPMAN
Thomas Y. Crowell Company
(1977)

(類義語辞典)

徳川宗賢・宮島達夫『類義語辞典』東京堂出版

藤原与一・磯貝英夫・室山敏昭『表現類語辞典』東京堂出版

磯貝英夫・室山敏昭『類語活用辞典』東京堂出版

小学館辞典編集部『使い方の分かる類語例解辞典』小学館

田忠魁・泉原昇二・金相順『類義語使い分け辞典』研究社出版